

学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 令和2年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和2年5月13日(水) 書面開催の資料郵送
令和2年5月29日(金) までに書面表決書を全委員より回収
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者 委 員
- | | |
|-------|---------------------|
| 都竹 淳也 | 飛騨市長 |
| 沖畑 康子 | 飛騨市教育長 |
| 川上 佳洋 | 宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長 |
| 渡邊 正憲 | (株)飛騨ダイカスト代表取締役 |
| 石原 典子 | 元民生委員(主婦) |
| 北村 淳子 | (有)まるじん役員 |
| 廣田 真也 | 飛騨古川青年会議所理事長 |
| 柴田 駿一 | 吉城高校同窓会長 |
| 藤白 規良 | 吉城高校育友会長 |
| 老田 知美 | 吉城高校育友会女性部長 |
- 学 校 側
- | | |
|--------|----------|
| 日江井 孝浩 | 校長 |
| 中田 和美 | 教頭 |
| 大乘坊 健 | 事務長 |
| 小原 誠 | 教務主任 |
| 河野 和代 | 生徒指導主事 |
| 小澤 耕 | 進路指導主事 |
| 桐谷 直嗣 | 特別活動部長 |
| 八賀 武子 | キャリア推進部長 |
| 寺門 隆治 | 理数科主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 委員長、副委員長の選出

委員長 柴田 駿一 様
副委員長 沖畑 康子 様

全員一致で承認されました。

(2) 教育課程の編成に関する事項

全員一致で承認されました。(意見・質問及び回答は以下のとおり)

意見・質問1 学校設定教科「ESD」は、毎年「地域課題探究」「国際理解探究」のどちらかを選択するのか。それとも3年間で1度しか選択できないのか。

回答1 「ESD」の選択は、どちらかを必ず選択しなければいけないものでは

ありません。昨年度は、「地域課題探究」は27名、「国際理解探究」は10名が選択しました。

「ESD」のうち、「地域課題探究」は「地域課題探究A」（1年次）、「地域課題探究B」（2年次）、「地域課題探究C」（3年次）という科目名で開講し、毎年を選択となります。そのため3年間で最大3単位修得が可能です。また、「国際理解探究」は、台湾研修を主とし、事前事後の研修も含めて1単位の修得となります。3年間のうちの年次でも選択でき、3年間で最大1単位修得が可能です。（令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により開講しません。）

意見・質問2 各科、コースに対応した、きめ細かな（各コースごとに特徴のある）教育課程が編成されている。

回答2 令和元年度より単位制高校となり、一人一人の進路希望に応じた科目選択ができるよう、多様な開講科目や学校設定科目など、本校独自の特徴あるカリキュラムマネジメントを考えています。

(3) 学校経営計画に関する事項

全員一致で承認されました。（意見及び回答は以下のとおり）

意見・質問1 教科指導についての評価、授業アンケートは項目が重要であるが、「学力がつく授業」をどのようにとらえているのか。教師と生徒のとらえは同じなのか。それは、新学習指導要領で育成を目指すとされている資質能力を踏まえたものとなっているのか。

回答1 難しい問題ではありますが、毎年実施している保護者、生徒のアンケートに基づいて、授業改善をしています。また、年度当初には職員一人ひとりが「自己評価表」に目標を定め、年度末には自己評価をし、次の年度に生かしています。

また、令和4年度から実施される新学習指導要領を踏まえたカリキュラムマネジメントについてはすでに検討を始めておりますが、その中で学校設定教科、科目が重要な意味をもつと考えております。本校では、現行の教育課程においても持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である「ESD」を学校設定教科として開講しています。

今年度は、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の事業特例校として文部科学省より指定を受け、教育課程の特例等を活用したカリキュラム開発が可能であり、より一層カリキュラム開発に力を入れる予定です。また、従前から取り組んでいる「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクト」もコロナ禍にある現状を踏まえ、今年度は「地域とともに考えるこれからの社会」というテーマで新たな実践を模索しているところです。

「学力がつく授業」のとらえが教師と生徒で必ずしも一致していないかもしれませんが、教師側としては、新学習指導要領を踏まえ、前述の内容を実践していく中で生徒や保護者の方に理解していただければと考えます。平成30年度よりユネスコスクールとして認定されていること

も大きな力になっています。

意見・質問2 学校経営計画（マニフェスト）の教科指導重点目標にICT機器活用とあるが、時代を見据えた素晴らしい取り組みだと思う。その延長線上で、是非今後は、オンライン学習について必要なハード・ソフト両面の整備と意識改革に取り組むことが必要ではないかと思う。今般の新型コロナ対応の危機管理のみならず、様々な取り組みが考えられるとよいと思う。

回答2 理数科設置校である本校は、「理数教育フラッグシップハイスクール」の指定を受けており、従前からICT機器の充実度は近隣の他校より高かったと思いますが、今回の新型コロナ対応の危機管理を契機として一気にICT機器を活用した授業改革が進んだと考えています。県立高校として臨時休校中のWeb会議システムを利用したオンライン授業の実施はもちろんですが、オンライン授業以外にも職員の発案による吉城高校独自の取り組みとして、オンライン学習支援システム「ロイロノート（株式会社L o i l o社）」の活用がスタートしました。非常に便利なツールで、臨時休校が明けた後も活用しています。良くも悪くも新型コロナによって学校は大きく変わっていくことが想定されます。状況がどう変わろうと臨機応変に対応していく所存です。

（4）学校の組織編成に関する事項

全員一致で承認されました。（意見及び回答は以下のとおり）

意見・質問1 各種委員会の構成については、学校運営をする上で、短期あるいは中長期的に協議検討が必要ではないかと思う。企画委員会ははじめ膨大な各委員会の開催は、校長をはじめ職員の負担が相当あるのではないか。委員会を統合または精選し、職員の負担軽減が図れないか、今後検討すべきである。職員の苦労に、衷心より頭が下がる思いである。

回答1 各種委員会については、新たな法の制定により、設置の必要性がでてきて増える傾向にあります。学校内で判断できるものについては、御意見をいただいたように精選を検討します。また、毎月の企画委員会と職員会議はペーパーレス化を図り、事前に資料をデータで共有するなど、1時間以内に終わるよう工夫しています。

6 会議のまとめ

令和2年度第1回「学校運営協議会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催となりました。そのため年度当初に協議会の承認を得なければならない「教育課程の編成に関する事項」「学校経営計画に関する事項」「学校の組織編成に関する事項」の3点についての書面表決とさせていただきます。この3点については、上記の通り全員一致で承認されました。第2回、第3回の「学校運営協議会」では、学校に来ていただき、施設設備や授業の様子もみていただき、御意見をいただきたいと思っております。